

● 環境省釧路自然環境事務所
〒085-8639 北海道釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4階
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

知床国立公園

Shiretoko National Park

日本の国立公園2

知床国立公園

シレットコスミレ (スミレ科)



画: 二橋愛次郎

Viola kitamiana

知床山系の砂礫地に生える。花の直径およそ2cm、草丈10cmに満たない。花は白く中央部がくっきりした黄色、葉は光沢ある濃い緑色で、硫黄によって白く漂白された砂礫によく映える。点在する大きめの石に寄り添うように咲く。

● ウトロ自然保護官事務所
〒099-4355 北海道斜里郡斜里町ウトロ東186
TEL 0152-24-2297 FAX 0152-24-3646

● 羅臼自然保護官事務所
〒086-1822 北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町
TEL 0153-87-2402 FAX 0153-87-2468

● 羅臼ビジターセンター
〒086-1822 北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町
TEL 0153-87-2828

 環境省
Ministry of the Environment



National Parks in Eastern Hokkaido 北海道東部の国立公園



知床国立公園 Shiretoko National Park

知床(シレットコ)の語源は、アイヌ語の【シリェトク sir-etok】に由来し、地の(sir)・突出部(etok)=大地の突端(行き詰まり)、岬を意味する。

CONTENTS

ようこそ知床国立公園へ	002
写真でつづる知床国立公園	004
地図でみる知床国立公園	012
知床国立公園のプロフィール	014
知床国立公園の利用について	018
知床国立公園に行くには	022
関係施設・機関連絡先一覧	023
国立公園のプロフィール	024
北海道の自然環境保全	025

ようこそ知床国立公園へ

Welcome to Shiretoko National Park

多くの野生生物を支える豊かな森と海

アイヌが「シリエ-トク（大地の果てる所）」と呼んだ知床半島。

今なお原生の自然が色濃く残されたこの地には、

アイヌの人々が「カムイ（神）」と称したヒグマやシマフクロウが生息している。

流氷の到来は豊饒の海を育み、川へ、そして森へとつながってゆく。

その濃密で貴重な自然は、2005年夏、世界自然遺産に登録された。



写真でつづる知床国立公園—— 1
Exuberant energy of wildlife

ほとばしる野生の息吹

雄大な自然に暮らす生き物たち

Shirako National Park introduced with photos



海岸を歩くヒグマ

日本で最大の陸上動物である。草本や木の実、キノコなどのほか、秋には遡上してくるサケ・マスを食べ冬眠にそなえる。

📖 ヒグマ：アイヌ語で【キムン・カムイ】(山の・神)と呼ぶ



流水とオオワシ、 オジロワシ

世界的にも希少な大型猛禽類で、羽を広げると2mを超える。オオワシ・オジロワシの多くは冬季にロシア極東部から越冬のため飛来するが、オジロワシの一部は国内で繁殖しており、知床では通年その姿を見ることができる

📖 アイヌ語でオオワシは【カバッチリ】【カバッチリ・カムイ】
オジロワシは【オンネウ】と呼ぶ

オオワシ(左)、オジロワシ(右)



水中を舞う トドの群れ

アシカ類最大の種であるトド。12～1月、羅臼側の沿岸ではイカダ状になった群れが多く見られる。環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類(VU)である一方、漁網被害や漁獲物の損傷などの漁業被害もあり、共存の道が模索されている

📖 トド：アイヌ語で【エタシベ】
(いびきをかくもの)と呼ぶ



悠然と泳ぐシャチ

季節を問わず、しばしば知床近海に現れるシャチ。10m近くに達する体長と10トンにもなる体重ながら、時速80kmで泳ぐことができる

📖 シャチ：アイヌ語で【レッ・ウン・カムイ】(沖にいる神)と呼ぶ



溪流のオショロコマ

一年を通じて知床の川に生息するイワナの仲間。知床の川の主役であり、繊細な紅白の斑点とオレンジ色の腹のコントラストが美しい。シマフクロウなどの大型猛禽類の貴重なエサ資源でもある

📖 オショロコマ：アイヌ語で【オソル・コ・オマ】と呼ぶ

写真でつづる知床国立公園—— 2
Wildlife from time immemorial

太古からつづく野生生物たちの営み

そこには何百年、何千年も繰り返されてきたいのちの循環がある

Shiretoko National Park introduced with photos



鋭い眼光を放つ シマフクロウ

翼を広げると1.8mにもなる世界最大級のフクロウ。アイヌの人々は「コタン・コル・カムイ」（村を支配する神）として大切に扱ってきた。日本国内では120羽程度しか生息していない希少種。



産卵のため遡上するカラフトマス

北洋での回遊を終えたカラフトマスは、秋に産卵のため生まれた川へと戻ってくる。一部はヒグマや猛禽類のエサとなり、また屍は豊かな栄養素となって知床の川や森に滋養をもたらす

カラフトマス：アイヌ語で【エモイ】、【ヘモイ】、【トビウ】（背中のコブ）と呼ぶ



若いエゾシカのオス

エゾシカは日本に生息するシカの中では最大。角突きはオスが秋の繁殖期に見せる行動。近年、知床のエゾシカは急増しており、食害による植生の破壊が問題となっている

エゾシカ：アイヌ語で【ユク】と呼ぶ



尾を上げて潜るマッコウクジラ

12～18mにもなるマッコウクジラは、夏、羅臼沖でその豪快な潮吹きや尾びれを見ることができる。イカ等を捕食し、3,000mの深海まで潜るといわれる

クジラ：アイヌ語で【フンベ】（フンと音を出すもの）と呼ぶ



流氷上の ゴマフアザラシ

流氷の上に寝そべったり氷海に顔を出す姿が愛らしいゴマフアザラシ。流氷とともに越冬・出産のために知床を訪れる。3月下旬には流氷上で真っ白な子どもを出産する

ゴマフアザラシ：アイヌ語で【トッカーリ】（アザラシ全般）【ボキリ】、【ケショボキリ】（斑点がついているもの）と呼ぶ

写真でつづる知床国立公園—— 3
Rich and varied natural landscapes

変化に富んだ自然景観

人を寄せ付けない厳しさは、同時に人の想像を超えた景観をつくる

Shiretoko National Park introduced with photos



夕焼けに染まる岩尾別の断崖

知床半島の海岸線は険しい地形が連続する。なかでも斜里側の岩尾別周辺は、高さ100～200mの断崖が続き、波や流氷に浸食された独特の姿が見られる
(📷：フレベの滝展望台)



海に落ちる カシュニの滝

海岸から稜線まで一気に駆け上がる知床半島。川には「中・下流域がない」と言われ、ときに滝がそのまま河口となっている

(📷：ウトロ～知床岬航路の観光船より)



晩秋の知床五湖と 初冠雪の羅臼岳

原生林の中に点在する幻想的な五つの湖沼。周囲の深い森や知床連山を投影する姿は、知床を代表する景観のひとつといえる

(📷：知床五湖・一湖)



一直線につづく 知床連山

知床連山はおよそ25万年前の火山活動によって形成された。楽園を思わせるお花畑や湿原、今なお活動を続ける活火山と、さまざまな表情を見せてくれる

(📷：硫黄山付近の稜線より)

写真でつづる知床国立公園—— 4

Rich ocean helps maintain terrestrial ecosystems

陸の生態系を支える豊かな海

流氷がもたらす海の恵みが、野生生物をはぐくみ、人々の生活を支えている

Shiretoko National Park introduced with photos

シロザケの水揚げ

知床は北海道内でも屈指の水揚げを誇る。主力はサケ・マス類、それに羅臼では冬期のスケウダラが加わる。盛期には何十という漁船が集まり、港は活気に包まれる



010

羅臼前浜のコンブの森

知床・羅臼産のコンブは「羅臼昆布」という最高級品として関西の料亭などへ出荷される。また、海底を覆い尽くすコンブの森は魚のゆりかごとして、稚魚をはぐくむ



コンブの森とカラフトマスの群れ

ゆらゆらと揺れる巨大なオニコンブの上を、産卵のため岸寄りしたカラフトマスが泳ぐ。秋にはシロザケも加わり、知床の川はどこも遡上したサケ・マスであふれかえる



海原を埋め尽くす流氷

知床は北半球で流氷が見られる南端にあり、流氷がもたらす植物プランクトンの大増殖が、知床の生態系の礎となる

流氷の海の天使、クリオネ

流氷と共に北の海から知床にやってくるクリオネは知床の海の豊かさを象徴する存在だ。貝殻を持たない巻貝の一種



011

地図でみる

知床国立公園

作家の司馬遼太郎が「剣の抜き身が海に突き出したような形」と形容した知床半島は、長さ約70kmの細長く鋭い形をしている。そして、その剣の中心線沿いに先端から付け根にかけて1,200～1,600mの急峻な山々が連なっている。半島の先端部の20kmほどは、道路もなく、人工物は、岬にある灯台と、海岸沿いに点在する漁業者の番屋だけである。

山々を挟んで、北西側が斜里町、南東側が羅臼町である。斜里町のウトロと、羅臼町の羅臼は宿泊施設や情報提供施設が集中する、国立公園の利用拠点となっている。

この2つの利用拠点を結ぶのが知床横断道路だ。横断道路の最高地点である知床峠からは、晴れていれば、山々や海の眺めが素晴らしい。なお、横断道路は積雪と厳しい気象のため冬期(11月上旬から4月下旬)は通行止めとなり、羅臼とウトロを行き来するには、半島の付け根に位置する根北峠を経由し2時間以上の行程となる。

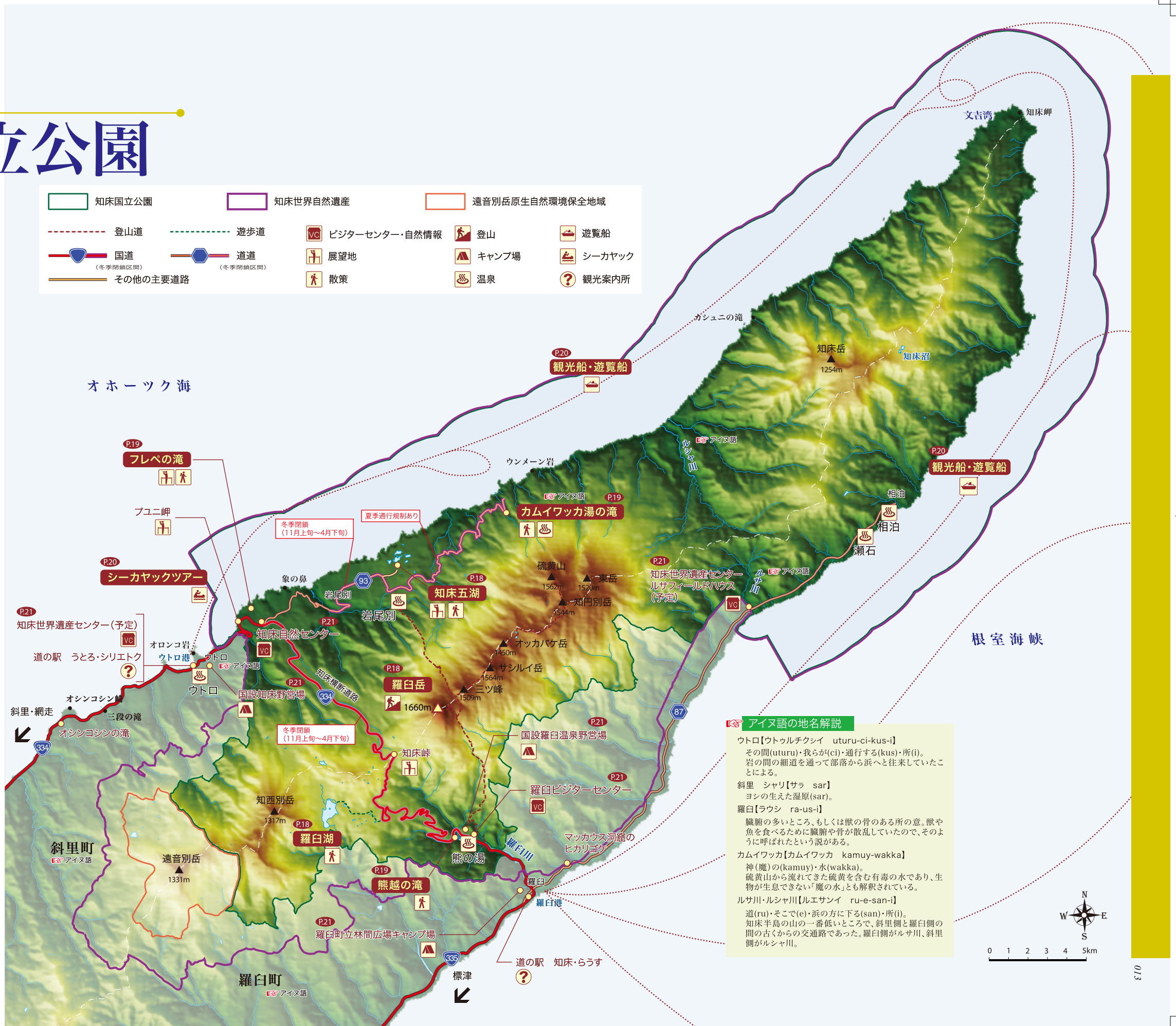
ウトロ側の見どころには、オホーツク海の展望が得られるブユニ岬、断崖を静かに流れる滝が美しいフレベの滝、湖面に映る山々の眺めを楽しむ知床五湖、そして、温泉水が流れるカムイワッカ湯の滝などがある。

羅臼町側の見どころは、知西別岳の東にある知床最大の湖の羅臼湖や、羅臼川にかかる熊越の滝などである。

登山が好きな人であれば、日本百名山の一つでもある羅臼岳は、ウトロ側、羅臼側どちらからも日帰りで登ることができ、知床らしさを存分に満喫することができる。

観光船は、ウトロ側、羅臼側ともに運航している。ウトロ側では知床岬まで続く切り立った断崖が織りなす厳しくも雄大な景観とともに多くの海鳥を、羅臼側では春から秋はイルカやクジラなどの大型海棲ほ乳類、また冬季には流氷とオオワシ・オジロワシ、アザラシ類を楽しむことができる。

そして、ウトロ側、羅臼側ともに野性味あふれる個性的な温泉が複数あり、旅の疲れを癒すのに最適である。



Description of the Shiretoko National Park

知床国立公園のプロフィール

日本国内でも屈指の豊かな生態系を有する知床国立公園。2005年7月、その自然の価値が認められ、世界自然遺産にも登録された。世界的にも注目を集めるに至った知床の自然は、いったい何がすごいのか。またどのような経緯でその豊かな自然が現在まで守られてきたのかを解説する。

知床国立公園の特徴

知床国立公園の特徴は4つある。まず、ヒグマやシャチなどの大型ほ乳類、絶滅のおそれがあるシマフクロウをはじめとするたくさんの野生生物が棲んでいること。そして、流水が到来する海と、原生的な森林が残る陸が、相互に関連しあい、一体となって生態系を形づくっていること。また、火山活動や、浸食活動により形成された、険しく雄大な自然景観が見られること。最後に、これらの自然のなかで人々が生活を営みながら、自然を守ってきていることである。

i) 野生生物の密度の濃さ

知床を特徴づける動物といえば、日本で最大の陸上動物のヒグマだ。知床半島の生息数は約200頭と推測され、世界でも屈指の密度であると言われている。注意深く観察すると、ヒグ



▲知床五湖の二湖から望む知床連山。海から高山帯まで連続する生態系に知床の価値がある

マの足跡、糞、植物を食べた痕跡や、木につけられた爪痕などはいたるところで見ることができる。また、エゾシカやキタキツネなどは道路脇などに頻繁に現れ私たちの目を楽しませてくれる。空を見上げれば2mもある翼を広げたオジロワシを見つけられるかもしれない。特に、冬は、ロシアから多

くのオオワシ・オジロワシがやってくるため、1日に100羽以上も見ることがある。海ではシャチをはじめとするクジラ類が悠然と泳いでおり、冬にはアザラシやトドもやってくる。

ii) 海と陸の相互関係

このようにたくさんの野生生物が狭い範囲の中で生息していけるのは、流水がもたらす恵みをサケ科魚類が陸に運ぶという、知床ならではの海と陸との関係によるところが大きい。例年1月下旬に知床に到来する流水は、アイス・アルジーと呼ばれる植物プラン

◀ 知床の食物網

▼半島先端に近い小さな川の河口で、2頭の若いヒグマが漂着したミンクジラの死骸を食べていた。このようにして、海と陸でのちの循環が行われている



▶ オホーツク海では、冬になると海水が凍って海水ができる。知床は、この海水が流れつく南端にあたる



クトンを伴ってやってくる。春になり流水が解けると、アイス・アルジーは爆発的に増殖し、それを食べる動物プランクトンが増える。サケ科魚類の稚魚が、これらの動物プランクトンを食べながら知床を旅立ち、海を数年回遊した後、知床に戻ってくる。そして、川を遡上するサケはヒグマやシマフクロウの食糧となり、糞としてその栄養は森に運ばれていく。また、海の魚をオオワシ・オジロワシが食べたり、海岸に打ち上げられたクジラをヒグマが食べることにしても、海の栄養は陸上に運ばれていく。このような

流水の到来を基点とする栄養の循環が、知床に生息する多くの野生生物を支えているのである。

iii) 雄大な景観

羅臼岳や硫黄山などの山々や、知床五湖や羅臼湖などの湖沼は、火山活動によって形成されたものであり、知床に点在する温泉も火山活動の恩恵である。また、海岸部で見られる、120mにも及ぶ海食崖やユニークな形をした奇岩群は、火山の溶岩や堆積物が波浪や流水の浸食によって形づくられたものである。

iv) 保護の歴史

このように、雄大な自然景観をもち、高密度に野生生物が生息する知床が、国立公園に指定されたのは、1964(昭和39)年である。1934(昭和



◀ウトロから先の半島西海岸には見事な断崖が続く。溶岩地形が波や流水などで浸食されてできた地形だ



▲世界自然遺産地域の約86%が知床国立公園である。その他、原生自然環境保全地域、国指定鳥獣保護区、森林生態系保護地域などにより、遺産地域の自然が法的に守られている

9)年に日本の最初の国立公園が指定されてから、30年後にあたる。

当時の国立公園は、観光振興の期待を寄せる地元の要望から指定されることが一般的だったが、例外的に知床は、1953(昭和28)年に知床の調査を実施した植物学者・館脇操らによる強い意見により「原始的な景観の保護のため」に指定された。規制の厳しい特別保護地区の面積が指定当時50%(現在は60%)を占めており、全国の国立公園の中で、最も保護に重点を置いてきた公園であると言える。

国立公園指定後は、1960(昭和35)年代前半に着工された、ウトロと羅臼を結ぶ知床横断道路や、岩尾別からカムイワッカを通過してルシャに至る知床林道の工事が進められたほか、1980(昭和55)年代に国有林の一部が伐採されるなどの開発が行われた一方で、特別保護地区の拡大(1984、1995年)、原生自然環境保全地域の指定(1980年)、国指定鳥獣保護区の指定(1982年)、森林生態系保護地域の指定(1990年)など保護の強化が図られてきた。

地域住民や地元自治体の自然保護に対する意識が高いことも知床の特徴だ。地元の自治体である斜里町と羅臼町は、1974(昭和49)年に、知床の保護を宣言する「知床憲章」を制定している。また、1977(昭和52)年には、斜里町で日本におけるナショ



エゾシカの死体を除去する

知床五湖遊歩道で見つかったエゾシカの死体を運び出す知床財団の職員。観光客が歩く遊歩道周辺にヒグマを誘引しないための大事な作業だ。知床の自然と観光は、関係者の地道な努力によって共存している



▲知床五湖手前の道路沿いには、現在も離農した開拓民の廃屋がいくつか残されている

ナルトラスト運動の先駆けである「しれとこ100平方メートル運動」が開始され、さらに、1988（昭和63）年には、知床の調査・研究、自然保護思想の普及啓発を行うため知床財団が設立された。2006（平成18）年、羅臼町も出資団体となり、知床半島の2町にまたがる環境保全活動を一体的に進めている。

世界自然遺産登録

知床が世界自然遺産に登録される際に、高く評価されたのは次の4点だ。

- (1) 北半球で最も南に位置する流水域であり、流水による影響を大きく受けた特異な生態系の生産性が見られ、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本であること。
- (2) シマフクロウ、シレットコスミレなどの多くの希少種を含む海洋性及び陸上性の種にとって特に重要であること。
- (3) 多くのサケ科魚類とトドや多くの鯨類を含む海棲哺乳類にとって世界的に重要であること。
- (4) 世界的に希少な海鳥類の生息地として重要であるとともに、渡り鳥類にとって世界的に重要な地域であること。

もちろん、これらの価値を有するだけでなく、その価値を守ることが可能な制度や地元の取り組みがなければ世界遺産にはなり得なかった。そして、世界遺産に登録されたことにより、日本政府と地域の人々は、これらの価値を将来にわたって守っていく責務を担ったのである。



▲大木の樹洞で営巣し、溪流の魚を食べるシマフクロウが多数生息していることは、知床に健全な森と川が残っている証だ

地域の視点で自然を守る

世界遺産への推薦を契機として、知床では2つの会議が設置された。「知床世界自然遺産候補地連絡会議」(現「知床世界自然遺産地域連絡会議」)と「知床世界自然遺産候補地科学委員会」(現「知床世界自然遺産地域科学委員会」)である。「地域連絡会議」では、関係行政機関だけでなく、地域の意見を代表する団体や漁業協同組合などの広範な関係者が集まり世界遺産の管理について議論を行っている。一方で、「科学委員会」では、海と陸の生態系の専門家が集まり、科学的な見地から世界遺産の管理に助言を行っており、さらに、重点的に取り組みを進める必要がある「海域の管理」、「河川工作物の改良」、「エゾシカの管理」については、科学委員会の下にワーキンググループを設置して、

議論を行ってきている。

このように、地域の住民や漁業者を交えて議論する場を設けるとともに、科学的な知見に基づき管理の方針を検討し、遺産地域の管理が行われている。

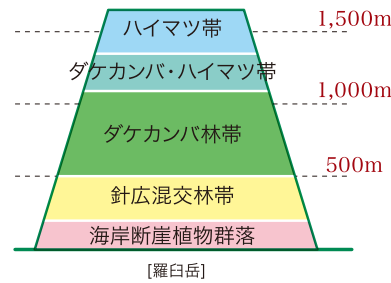
知床データセンター

知床世界自然遺産の管理に関する情報を集めたホームページが知床データセンターだ。知床を対象とした報告書や関係する会議資料が閲覧できる。
<http://shiretoko.env.gr.jp/>

自然保護と観光の両立

知床のすばらしい自然を、多くの人に楽しんでもらうことは、国立公園が果たすべき重要な役割の一つである。一方で、無制限の観光利用は、自然環境に悪影響を与える恐れがある。そのため、知床では、知床国立公園の望ましい保護と利用のあり方を検討するため、学識経験者、行政機関や観光関係者、山岳会などの地元団体等を構成メンバーとする「利用適正化検討会議」が設置され、自然に悪影響を与えない形で国立公園が利用されるための基本計画や、利用する人たちが守るべきルール「利用の心得」をまとめた。

また、2004（平成16）年には、斜里町と羅臼町の観光協会中心となって「知床エコツーリズム推進協議会」を設立し、知床の自然の営みとそこに暮らす人々との関わりを訪れる人達がより深く体験できるような、知床ならではのエコツーリズムを推進する活動を行っている。具体的には、知床五湖やフレベの滝等で行われているガイドツ



知床の多様な環境と植生

知床では、標高0mの海岸線から1600mの高山帯まで、様々なタイプの環境がコンパクトにおさまっている。海岸には自然草原、山腹には針広混交林やダケカンバ帯などの原生林、そして山の稜線にはハイマツ帯やお花畑の高山植物が見られる



▲冬の羅臼港を出入りする漁船の様子。知床近海は水産資源の豊かさでも知られている

アーのルールづくり、漁業と連携した観光プログラムの開発、ヒグマによる事故をおこさないための観光のあり方の検討などを行っている。

知床国立公園を楽しむコツ

知床国立公園は、原生的な自然が厳正に保護されている場所だ。そのため、多くの人が気軽に楽しめるような場所は意外と少ない。素晴らしい宝物を小さな窓から覗くようなものだ。そこで、知床の自然を楽しむための二つのコツをお伝えしたい。

一つ目は、「様々な角度から眺めること」すなわち、いろいろな体験をすることである。遊歩道を歩く、観光船に乗る、ガイドツアーに参加する、博物館に行くなど、様々な体験をすることにより、通り一辺倒の観光では見えてこない知床の姿を知ることができる

はずだ。

二つ目は「想像力を働かせること」である。ヒグマを実際に見ることはなくても、足跡や爪痕など痕跡を見ることによりヒグマの生活を想像することができだろう。また、おいしい海産物を食べる時に、川を遡るサケを捕まえるヒグマに思いをはせるのも良い。大空に舞うオオワシ・オジロワシの姿を見ながら、彼らのふるさとであるロシア極東部の厳しい自然について考えることもできだろう。また、温泉につかりながら、太古に知床の自然を形作った火山活動についてイメージするのも楽しい。

ゆっくりと滞在し、知床の自然の奥深さを感じ取って欲しい。

column

太古、人は知床で暮らしていた。

原生的自然が残されている知床だが、約8000年前の縄文時代早期の遺跡が幌別川河口にみついている。続縄文文化期（紀元0～7世紀ごろ）を経て、6～11世紀のころ、北方のサハリンから渡ってきた海洋狩猟民族（オホーツク人）が知床半島やオホーツク沿岸に暮らしていた。半島沿岸の遺跡からは、クジラの骨を使った道具や、アザラシやヒグマをかたどった土偶が出土している。古代人も、知床の豊かな海の恩恵にあずかっていたことがうかがえる。オホーツク人の動物の彫刻などに見られる自然観は、のちのアイヌの文化に影響を与えていったと考えられている。



アザラシの土偶



クマの土偶

[写真提供：知床博物館]



▲知床五湖では、ガイドの自然解説を聞きながら歩くツアーが人気を集めている

知床国立公園の利用について

[登山・散策] Climbing & Hiking

羅臼岳登山 (1660m)

A group of about ten people are standing on a dark, jagged rock formation. They are looking out over a vast, blue ocean under a clear sky. The people are dressed in casual summer attire, including hats and t-shirts. The rock formation is steep and appears to be part of a larger coastline.

※2008年6月現在、硫黄山からカムイワッカ湯の滝へは落石防止工事のため、下山できない

240m 岩尾別温泉
木下小屋
450m オホーツク展望台
840m 弥三吉水
1050m 極楽平
1300m 銀冷水
1660m 羅臼岳
羅臼温泉
硫黄山
三ッ峰

0 500 1000m

知床五湖散策

羅臼湖散策

知床峠・ウトロ入口

知床横断道路

羅臼湾入口

展望台

羅臼湖

五の沼

四の沼

三の沼

二の沼

一の沼

湿原

※羅臼湾入口を含め、知床横断道路は全面的に駐車禁止。自家用車は知床峠の駐車場を利用のこと。
(3.5km、徒歩約40分)

0 500m

フレペの滝遊歩道散策

熊越の淹散策

A map of the Kizaki area. The Kizaki River flows from the top left towards the bottom right. The Kizaki Dam is marked with a red dot and labeled '間欠泉' (Intermittent Spring). To the left of the dam is the '熊越の滝' (Kumagoshi Falls). The river flows into '羅臼湾' (Rausu Bay) at the bottom. The map shows the '国道羅臼温泉野営場' (National Route Rausu Onsen Campground) and the '羅臼レジャーセンター' (Rausu Leisure Center). The town of '羅臼市街' (Rausu City Center) is also indicated. A scale bar at the bottom shows distances of 0, 200, and 400 meters. A north arrow is located in the bottom left corner.

カムイワツカ湯の滝散策

A photograph of a waterfall with several people standing on the rocks and in the water. The water is white and foamy as it falls over dark, wet rocks. There are at least four people visible: one at the top left, one in the middle left, and two on the right side. The background is dark and wooded.

カムイワッカの滝

硫黄川

一の滝

二の滝

三の滝

四の滝

カムイワッカ川

知床峠

0 500 1000m

知床自然センター・知床五湖

※2008年6月現在、落石の危険があるため、一の滝までの利用になっている。また硫黄山登山道は通行止め。

【自然体験ツアー】 Nature Tour

観光船・遊覧船

知床の醍醐味は海にもある。ウトロ港・羅臼港から出航する観光船・遊覧船からは、また違った知床が見えてくるはず。知床を訪れたなら、ぜひ海からの景観も楽しんでみたい。

【ウトロ側】

ウトロ港を出港する観光船からは、流氷によって削られた断崖、崖の割れめから流れ落ちる大小の滝、数々の奇岩、ケイマフリ等の希少種を含む無数の海鳥などが観察できる。また、川の河口などでエゾシカやヒグマの姿を見ることが珍しくない。半島先端部では、漁業の拠点となる番屋が点在するなど、厳しい自然と共に生きる人間の営みを実感することができる。夏、晴れる日が多いウトロ側では、青空の下に広がる知床岬と岬台地の景色を高い確率で楽しむことができる。

【羅臼側】

羅臼周辺の根室海峡は今や日本屈指のホエールウォッチングポイントとして注目を浴びている。春から秋にかけて羅臼港から観光船に乗ると、条件がよいときは船の周りに無数のクジラの噴気があがるほど。春のミンククジラに始まり、シャチ、マッコウクジラ、ツチクジラと、季節とともに見ることができる種類が変わっていくことも大きな魅力だ。冬には、流氷とともにオジロワシ・オオワシやゴマフアザラシなどを間近に観察できる流氷クルーズも実施される。



シーカヤックツアー

【DATA】初級者向けのツアーは所要時間約3時間、料金は1万円程度

険しい海岸線に沿って紺碧の海を手漕ぎのシーカヤックで巡るツアー。海面すれすれから見上げる断崖は、覆いかぶさってくるような大迫力で、海鳥たちが子育てをする姿を間近に観察できる。初級者でも参加できるウトロ周辺のツアーの場合、フレベの滝や男の涙までの往復が一般的。初心者ガイドとともに二人乗りの艇に乗るので安心だ。このほか知床半島を数日間かけて一周する上級者向けのツアーも行われている。



知床岬方面へは
ルールを守って
自己責任で

知床岬などの知床半島の先端部地区には、利用者のための施設等はなく、特に原生的な自然が残されています。トレッキングやシーカヤックなどで立ち入る人に対しては、自己責任の重要性や環境保全のための注意事項・禁止事項などの地域のルールを「知床半島先端部地区利用の心得」として定めています。

知床国立公園 利用の注意事項 CAUTION!

1 野生動物に食べものを与えない

自然の生態系を乱すだけでなく、人に近寄るヒグマを創り出したり、キツネの交通事故を誘発するなど、人と野生動物の双方に不幸な結果をもたらします。

2 道を外れて歩かない

歩道や木道を外れて歩き回ると道に迷うなど危険だけでなく、植物が踏み荒らされたり、土が削られたりします。

3 動植物をとらない、脅かさない、傷つけない、持ち込まない

繊細な自然は、小さな行為でも大きな影響を受けます。

4 ゴミは持ち帰る

景観や野生動物に影響を及ぼし、ヒグマを誘引するおそれもあります。

5 ペットを外に連れて歩かない

ヒグマを刺激してしまうおそれがあります。

6 遊歩道上での食べ歩きや野外での調理は行わない

食べこぼしや食べ物のにおいはヒグマやキツネなどを引き寄せる原因になります。

7 ヒグマに出会わないようにする

ヒグマに対する私たちの行動次第で、危険な状況になることがあります。出会わないようにすることが一番の安全対策です。

8 ヒグマに近づかない、刺激しない
自分が危険だけでなく、人の接近に慣れすぎたヒグマはトラブルを起こすよう なる場合があります。

9 車のスピードは控えめに

野生動物が飛び出します。大きな事故にもつながります。

10 漁業活動を妨げない

地域の人々の生活を支えています。

遊歩道散策だけでなく、知床には、様々な自然の楽しみ方がある。自分にあったツアーを探してみよう。豊富な知識を持ったガイドが、さまざまなフィールドを案内してくれる。

【DATA】羅臼側、ウトロ側ともに数社が運航している。所要時間は1～2時間程度（ウトロ～知床岬航路のみ3～4時間）。

関連施設案内

動植物に関する知識や登山道に関する情報などがわかる施設や、知床の自然を心ゆくまで堪能できるキャンプ場など、国立公園をより深く利用するための施設を紹介しよう。

インフォメーション

知床自然センター

最大の見どころは縦12m、横20mの巨大スクリーンに映し出される映像「ダイナビジョン」。空撮を多用した迫力ある映像は、人間が立ち入ることができない知床の真の姿を、鳥になった気分で見ることができる。また、知床財団によるインフォメーション・カウンターでは、登山道や自然観察の情報を得られる。軽食がとれるレストランと売店も併設。



【DATA】所在地／北海道斜里郡斜里町岩宇別531
tel.0152-24-2114 開館時間/8:00～17:40(10/21～4/19は9:00～16:00まで) 休館日/12月31日 入館料／無料(ダイナビジョンは大人500円、子供200円)

羅臼ビジターセンター

2007年5月にリニューアルオープンした環境省の施設。知床半島羅臼側の情報提供や自然保護活動を行なう拠点となっている。館内では、知床の自然や歴史、文化などを見たり触れたりしながら知ることができる。さらに、総合案内カウンターやレクチャールームを備え、多目的に利用できるようになっている。



【DATA】所在地／北海道日釧郡羅臼町湯ノ沢町
tel.0153-87-2828 開館時間／9:00～17:00(11月～4月は10:00～16:00)休館日／月曜日および年末年始 入館料／無料

知床博物館

斜里町の中心部にあり、館名どおり知床半島をはじめ斜里町の歴史や自然に関する資料が豊富

に展示されている。特にアザラシやワシ類を中心とする知床の野生動物や植物の生態を紹介した展示が充実しており、剥製の数も非常に多い。



【DATA】所在地／北海道斜里郡斜里町本町49-2
tel.0152-23-1256 開館時間／9:00～17:00
休館日／4～10月は月曜日(祝日・振休日は開館)、11～3月は月曜日、祝日、年末年始
入館料／一般300円 小・中学生 無料

知床世界遺産センター(予定)

知床の世界自然遺産登録を受け、2009年オープンを目指して整備されているインフォメーション施設。建設予定地は知床利用の拠点である斜里町ウトロ地区で、世界遺産地域の入口施設として、多くの利用者に知床の世界遺産としての価値や魅力、利用のルール、マナー等を伝えることを目的としている。



一方、羅臼町ルサ地区には「ルサフィールドハウス」の設置が進められている。こちらは、世界自然遺産地域である半島先端部を利用する利用者に対してのルールやマナーのレクチャー、先端部のリアルタイム情報を提供することにより、事故防止と環境保全を図ることを目的としている。また、海と陸の生態系のつながりや、人と海の関わりなど、知床の自然の価値を伝える施設になる予定だ。



キャンプ場

国設知床野営場

ウトロ市街から徒歩約15分、夕陽台と呼ばれる静かな高台にあるキャンプ場。点在する大きな木が気持ちのよい木陰をつくり、晴れた日にはオホーツク海に沈む夕陽が美しい。



【DATA】所在地／北海道斜里郡斜里町宇登呂
tel.0152-24-2722(期間外)0152-62-2211 開設期間／6月20日～9月10日 利用料／大人1泊320円、子供200円

国設羅臼温泉野営場

知床横断道路を羅臼から知床峠方面に約3km行ったところにある森のなかのキャンプ場。道路をはさんで無料の露天風呂「熊の湯」があることから人気が高く、シーズン中は混雑する。羅臼岳登山口や間欠泉にも近い。「熊の湯」は地元有志によって維持管理され、地元の住民の憩いの場でもあるので、利用にあたってはマナーを守ること。



【DATA】所在地／北海道日釧郡羅臼町湯ノ沢町
tel.0153-87-2126(羅臼町役場環境管理課) 開設期間／6月1日～10月31日 利用料／1泊300円、小学生未満無料

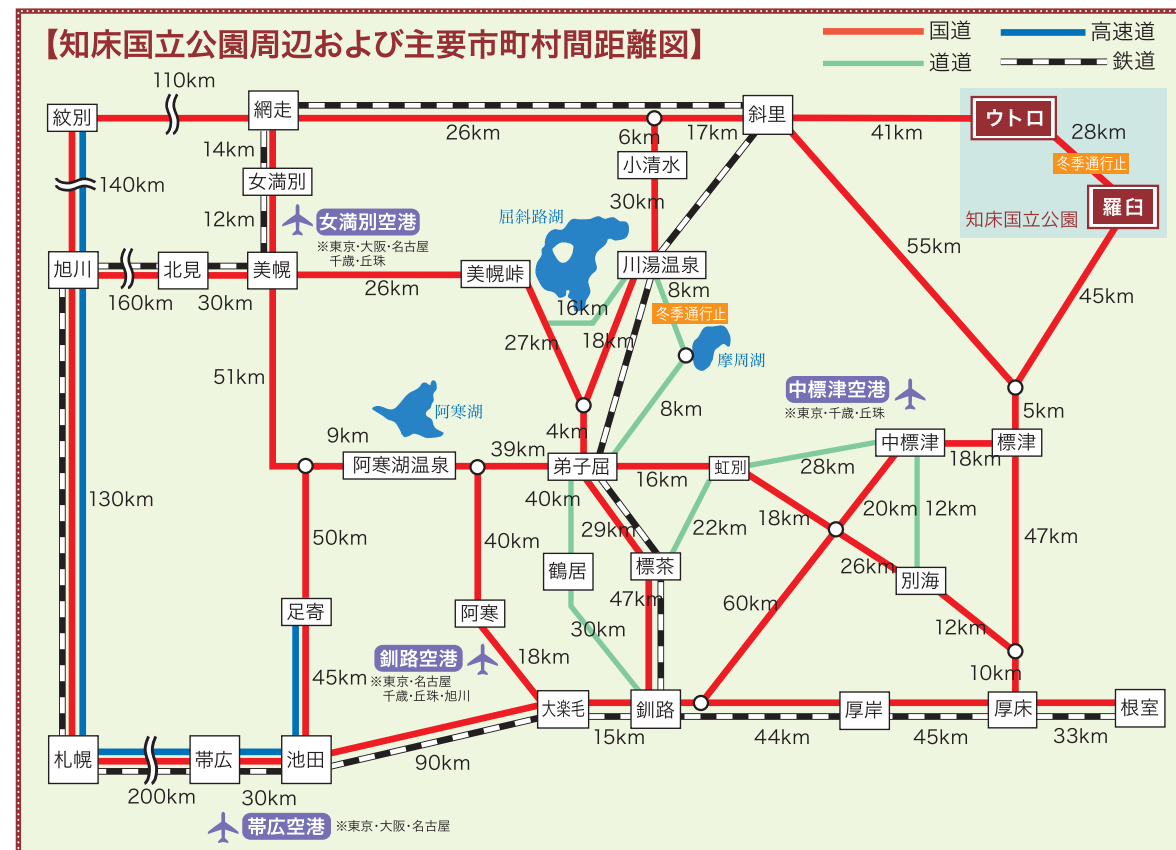
羅臼町立林間広場キャンプ場

旧羅臼町民スキー場の奥にある、周囲を森に囲まれた静かなキャンプ場。自然の地形を活かしたサイトは落ち着いた雰囲気がある。シーズン中でも比較的空いていることが多く、静かなキャンプを求める人におすすめだ。キャンプ場へと続く坂道をそのまま上りつめると展望台「望郷台」へと通じ、羅臼市街から根室海峡、国後島を一望できる。

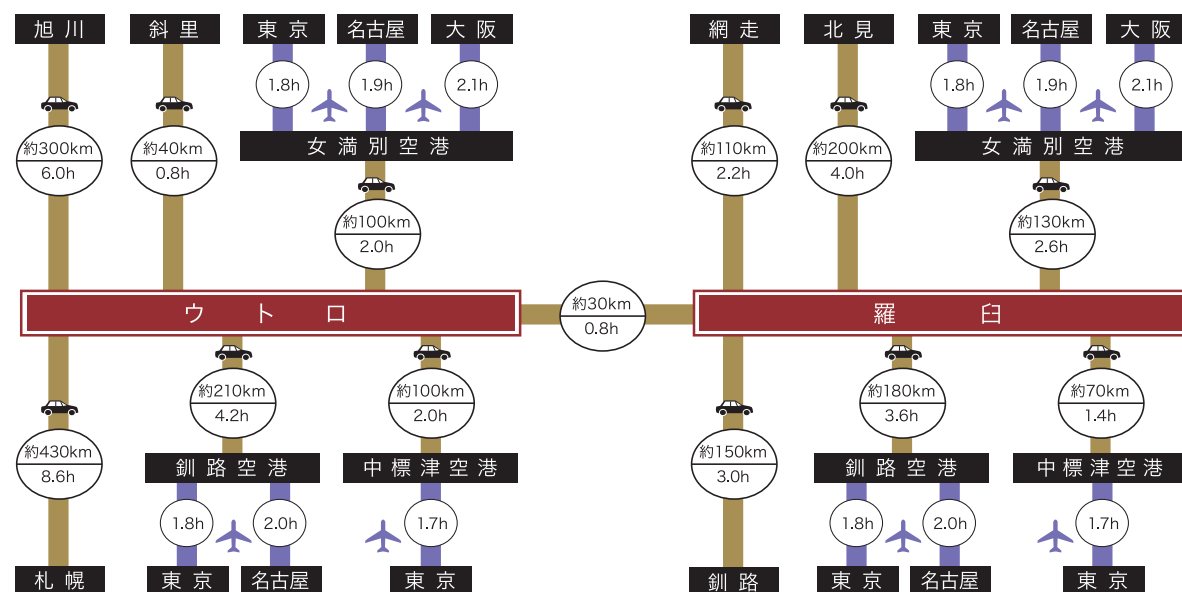
【DATA】所在地／北海道日釧郡羅臼町礼文町31-1
tel. 0153-87-2126(羅臼町役場環境管理課) 開設期間 6月1日～10月31日 利用料／1泊300円、小学生未満無料

知床国立公園に行くには

知床国立公園の拠点のひとつ、ウトロへは車、もしくはJR釧網本線・知床斜里駅からバスを利用する。根室側の羅臼へは車の利用が一般的。空路の場合、ウトロへは女満別空港、羅臼へは中標津空港に近い。



【知床国立公園への交通アクセス概念図】



関係施設・機関連絡先一覧

※主な利用施設の連絡先はp21を参照して下さい

飛行機（女満別空港・中標津空港就航会社）

JAL（日本航空）	0120-25-5971
※携帯専用	0570-025-071
ANA（全日空）	0120-029-222
※携帯専用	0570-029-222
AIRDO	0120-057-333

バス

斜里バス本社営業所	0152-23-2451
斜里バスウトロターミナル（4/28～10/31）	0152-24-2054
網走バス網走営業所	0152-43-4101
阿寒バス羅臼営業所	0153-87-2046
阿寒バス中標津営業所	0153-73-4370

鉄道（駅）

JR知床斜里駅	0152-23-2634
---------	--------------

ハイヤー

斜里ハイヤー（斜里町）	0152-23-2100
知床ハイヤー（斜里町）	0152-23-2010
ウトロ観光ハイヤー（斜里町）	0152-24-2121
羅臼ハイヤー（羅臼町）	0153-87-2002

レンタカー（空港や駅等の観光案内所にお問合せください。）

女満別空港観光案内所	0152-74-4182
中標津空港観光案内所	0153-72-3190
知床斜里観光案内センター	0152-23-2424
網走駅観光案内所	0152-43-4261

観光情報提供機関・施設

[斜里町]	
知床斜里町観光協会	0152-22-2125
知床斜里観光案内センター	0152-23-2424
知床ウトロ観光案内所（道の駅うとろ・シリエトク内）	0152-24-2639
道の駅 しやり	0152-26-8888
道の駅 うとろ・シリエトク	0152-22-5000

[羅臼町]	
知床羅臼町観光協会	0153-87-3360
羅臼町観光案内所（道の駅知床らうす内）	0153-87-3330
道の駅 知床らうす	0153-87-5151

【広域観光関係機関】

オホーツク圏観光連盟	0152-45-1885
根室観光連盟	0153-29-2427

自然情報等提供・解説施設

[斜里町]	
知床森林センター	0152-23-3009
[羅臼町]	
羅臼町郷土資料館	0153-87-2004

役場

斜里町役場（代表）	0152-23-3131
斜里町役場ウトロ支所	0152-24-2200
羅臼町役場（代表）	0153-87-2111

警察署・消防署

斜里警察署（代表）	0152-23-0110
斜里警察署ウトロ駐在所	0152-24-2010
斜里消防署（代表）	0152-23-2435
斜里地区消防組合ウトロ分署（代表）	0152-24-2110
中標津警察署羅臼駐在所	0153-87-2151
羅臼消防署	0153-87-2119

医療施設

斜里町国民健康保険病院（代表）	0152-23-2102
道立ウトロ診療所	0152-24-2052
羅臼町国民健康保険病院（代表）	0153-87-2116

国立公園のプロフィール

国土の7割が森林に覆われ、亜寒帯から亜熱帯まで多様な環境や動植物に恵まれた日本列島。豊かで美しい日本の自然を代表する地域が国立公園である。

日本の国立公園は1931年の制度創設以来、70年余りの歴史を有している。現在、全国で北海道から琉球列島まで、29の国立公園が指定されており、国土の陸域面積の5パーセントを占めている。我が国の代表的な自然環境をカバーする国立公園は、自然環境と生物多様性を保全するための保護地域システムの骨格を担っている。

日本の国立公園には、原生的な森林や湿原だけでなく、人と自然の関わりを通じて形成された農耕地や集落周辺の自然、また歴史的、文化的景観も含まれている。さまざまなレクリエーションや教育活動などに利用することも目的

としており、地域社会との共存を重視している。

日本の国立公園は、土地所有にかかわらず指定される。公園内の国有地も、多くは公園以外の目的で管理されている。このため、土地所有者を始めさまざまな関係者と産業活動や土地利用の調整を図りながら、自然資源の保護と持続的な利用を両立させていくことが日本の国立公園管理の基本となっている。

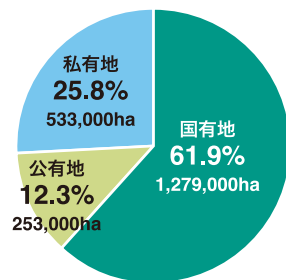
国立公園の管理はゾーニングにもとづいて実施されている。公園区域は、自然環境や景観の特性に応じて、最も厳格に保護される特別保護地区、公園区域の主体をなす特別地域、及び緩衝地域としての普通地域の3つのゾーンに区分されており、樹木の伐採や建設工事など風景に影響を及ぼす活動は、許可または届出の対象となっている。

国立公園の管理は、環境省の地方環境事務所が地方公共団体などの協力を得ながら実施している。各公園には自然保護官が配置され、開発行為との調整、利用施設の整備、普及啓発・インタープリテーション、自然環境のモニタリングなどの業務に携わっている。

日本の国立公園

- | | |
|------------|-----------|
| 1 利尻礼文サロベツ | 19 伊勢志摩 |
| 2 知床 | 20 吉野熊野 |
| 3 阿寒 | 21 山陰海岸 |
| 4 釧路湿原 | 22 瀬戸内海 |
| 5 大雪山 | 23 大山隠岐 |
| 6 支笏洞爺 | 24 足摺宇和海 |
| 7 十和田八幡平 | 25 西海 |
| 8 陸中海岸 | 26 雲仙天草 |
| 9 磐梯朝日 | 27 阿蘇くじゅう |
| 10 日光 | 28 霧島屋久 |
| 11 尾瀬 | 29 西表石垣 |
| 12 上信越高原 | |
| 13 秩父多摩甲斐 | |
| 14 小笠原 | |
| 15 富士箱根伊豆 | |
| 16 中部山岳 | |
| 17 白山 | |
| 18 南アルプス | |

●土地所有別



北海道の自然環境保全

豊かな自然を誇る日本の中でも、原生的な自然が最も多く残されている北海道。その自然を守り、共生し、将来に残していくために、国立公園のほかにも様々な自然環境保全に関するしくみがある。

●自然公園

日本の自然公園には、国立公園のほか、国立公園に準ずる自然の風景地である国定公園(全国に56箇所)、国立公園・国定公園に次ぐ自然の風景地である都道府県立自然公園があり、日本最大の保護地域制度となっている。

●原生自然環境保全地域・自然環境保全地域

ほとんど人の手が加わっていない原生状態が保たれている地域やすぐれた自然環境を維持している地域を、原生自然環境保全地域(全国に5箇所)、自然環境保全地域(全国に10箇所)に指定している。

●世界自然遺産地域

「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき、人類にとって普遍的な価値をもつ遺産として国際的に保護・保存されることが決まった自然地域。

●ラムサール条約登録湿地

日本は1980年に、国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促進することを目的とする「ラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)」に加入し、同時に釧路湿原を登録した(2008年現在、全国で33箇所(130,293ha)が登録)。

●国指定鳥獣保護区

鳥獣(野生に生息する鳥類とほ乳類)の保護繁殖を図るために指定される区域(大規模生息地、集団渡来地、集団繁殖地、希少鳥獣生息地の4区分)。狩猟による鳥獣の捕獲が禁止されるほか、野生鳥獣の保全事業が実施される。

